

編集後記

2009年の12月に刊行する予定でしたが、編集が遅れましたことをお詫びします。黒潮圏のメンバーはかなり多分野、多方面で活躍されていますので、海外学術調査や分野の紹介などの記事を積極的に掲載したいと思います。皆様の投稿や寄稿者の紹介をお願いします。黒潮圏科学は専門領域の話題ばかりではなく、文理融合を念頭に幅広い領域の記事の掲載を目指しています。

表紙：今回は、土佐和紙を使った貼り絵を制作されているJoanna Dorothy Hareさん（ニュージーランド出身）の作品を自分で撮影して掲載してみました。色合いが原作を反映していない面があるので、作品をご覧になりたい方は、作者までお申し出ください。連絡先は別に記します。Joanna Dorothy Hareさんは日本文学の翻訳も手がけておられます。特に、深沢七郎の作品を多く訳されています（「みちのくの人形たち」、「揺れる家」、「いのちのともしび」など）。また、高知市在住の三浦まどか氏による干支の動物をテーマにする物語の和英翻訳（「赤毛牛の毛くんとロボット博士」、「わくわくマウスの一夜物語」、「養豚場の瓜坊くん」など）や新四国曼陀羅霊場のガイドブックの和英翻訳と解説も手がけておられます。また、四国の遍路道（Buddhist pilgrimages of Shikoku）の研究をされており、現在、サンティアゴ・デ・コンポステーラ（Santiago de Compostela、スペイン北部ガリシア自治州の首都、12使徒の聖ヤコブの亡骸が安置されているコンポステーラ大聖堂が巡礼の対象）への巡礼も体験されつつあります。そこで、この二つの巡礼を比較した研究を期待しています。

「食の安全と健康を科学的に考える」：ポスターを載せたとおり田中壮太さんの企画で2009年10月4日にシンポジウムを行いました。概要：中国製食品は危険であるとか、有機農産物は健康に良いなど、不確かな食と健康に関する情報が氾濫している。しかし、マスコミ情報には、科学的に裏づけの無いもの、信憑性が疑われるものなどが多く含まれている。そのような中で、リスクとは何か、マスコミ情報の読み解き方、そして、高知大学で行っている新たな健康・栄養支援システム構築の試みについて講演していただき、どのように情報を取捨選択し、健康な生活へと結びつけられれば良いのかを考えていただく。また、平成20年度に、高知大学では、分野横断型研究・教育を重要課題の一つとし、大学院を一本化して総合人間自然科学研究科を設置した。また、地域貢献も重要な課題である。その

一環として、様々な分野のシンポジウムや講演会を聴講し、学生が高度ジェネラリストとしての資質を身につけられる場を提供している。講演者の松永和紀さんは元毎日新聞記者で、「メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学」光文社で2008年度科学ジャーナリスト賞を受賞されています。NPO法人DGC基礎研究所事務局長邑瀬章文さんは「食品リスクについて」講演され、本号に講演内容を掲載しています。本学からは久保田賢さんが「新たな健康・栄養支援システム構築の試み」と題して講演をされました。

黒潮圏総合科学シンポジウム
食の安全と健康を科学的に考える
【日時】2009年10月4日(日) 13:00~16:00
【会場】高知共済会館(大ホール) 高知市本町5丁目3-20
【プログラム】
13:00 開会
13:20~13:30 黒潮圏総合科学専攻長 柴田 一雄 挨拶
13:30~14:00 「食品リスクについて」 NPO法人DGC基礎研究所事務局長 邑瀬 章文
14:00~15:00 「食の安全情報を読み解く」 科学ライター 松永 和紀
15:00~15:10 休会
15:10~15:40 「新たな健康・栄養支援システム構築の試み」 本学助産師 久保田 賢
15:40~16:00 閉会挨拶
本場の食の安全とは何か、リスクとは何か。そして、私たちはどう対処すべきか——
お問い合わせ 黒潮圏総合科学専攻事務室
〒783-8502 高知市南国町物産2-200 TEL.088-664-6798 FAX.088-664-6787
■主催/高知大学大学院・総合人間自然科学研究科・黒潮圏総合科学専攻 **参加無料**

世界の教育事情：2009年9月10日、11日と黒潮圏総合科学部門を代表してフィリピン共和国 Bicol Universityの40周年記念シンポジウムに参加してきました。Raising a Nation's Productivity and Competitiveness through Cross-Border Higher EducationというテーマでInternational Academic Colloquium が開催された。私は“Effects of Algae Extracts on Tumor Growth : Antitumor Effects of Spirulina lipopolysaccharides through Toll-like receptor 4”と題して研究分科会で発表を行った。主なテーマは国境を越えた高等教育ということで、教育界以外にも宗教界、政界など多くの講演者が招聘されてい

た。メキシコ大使も来られており、スペイン文化圏としての共通性を感じさせるところがあった。Bicol大の教授からDavao市にアジアで最大級の日本人コミュニティーがあり、その子孫が自分のルーツを探す経緯を書いた本を紹介された。また、Legazpi市では日本人によって斬首された首の無い像を紹介された。車で移動中であったので写真で紹介できないのが残念です。

このシンポジウムでも強く感じたことであるが、国境を越えた教育のためには、昨年、紹介したTuscany University Networkのようなシステムが黒潮圏でも必要であると強く感じた。

編集委員長 富永明